

教区だより

No.326

2015 12

真宗大谷派 京都教区 教化広報誌



特集

「靖国問題学習会 現地研修レポート」

2・3

靖国問題学習会が2015年6月25日～26日、植木徹誠氏を訪ねて三重県伊勢市で現地研修を行いました。その研修会の様子をレポートしていただきます。

今という時代／出会いの窓

4

連載

《第19回》

親鸞 一時代を生きる—

平 雅行 氏

5

京都教区の動き

6

京都教区教化レポート（大谷スカウト協議会）

7

——特集「靖国問題学習会 現地研修レポート」——

靖国問題学習会

一切平等・非戦平和主義に生きた植木徹誠氏に学ぶ 谷口 勇一

靖国問題学習会

うえきてつじょう

受け、のちに仏教の僧侶になった人は他にい
ない」と、大東先生は語られます。等氏が著書
に記したように、まさに支離滅裂です。

得度から一年後、徳月氏から「滋賀県の一戸

の山奥にある貧しい寺が後継住職を求めてい
る。どちらを選ぶか」と聞かれた徹誠は、迷う

ことなく貧しい方の寺を選び、大台町栗谷の

送されたテレビ番組で、等氏が父の生きざまに
ついて語っておられます。ビデオ鑑賞後、大東
仁先生にご講演していただきました。一八九五年、伊勢市の商家に生まれた徹誠氏は、母方の

例会で輪読を続けてきました。その著書の中に
男』(朝日出版)を学習資料として、毎月の定

等氏は父徹誠氏を「支離滅裂な男」と記してい
ます。研修当日、石川県や地元三重県の参加者
も含めて総数十八名はJR伊勢駅に集合。車に

分乗して伊勢市朝熊町に向いました。朝熊は徹
誠氏が真宗大谷派三宝寺説教所の住職として暮
らし、部落解放運動に尽力し、非戦平和を唱え
続けた地です。三宝寺説教所は戦後廃寺となり、
跡地は公園になつてきました。現在、朝熊には
浄土真宗本願寺派の三宝寺があり、そこを会場
としてお借りし、研修を行いました。はじめに
地元集会所に保管されている記録ビデオ『植木
等父を訪ねる—ある真宗僧の軌跡—』を鑑賞
しました。徹誠氏没後六年目の一九八四年に放

ついて語っておられます。ビデオ鑑賞後、大東
仁先生にご講演していただきました。一八九五年、伊勢市の商家に生まれた徹誠氏は、母方の
親戚筋にあたる真珠王・御木本幸吉が経営する東京の貴金属工場で働きながら、キリスト教、
労働運動、社会主義等、さまざまな思想の潮流
に影響を受け、牧師の勧めでキリストの洗礼を
受けます。

■部落差別に直面

関東大震災後、十八年勤めた工場を解雇され
た徹誠氏は、妻の実家・西光寺(伊勢市小俣町)
に家族とともに身を寄せます。この土地で部落
差別に直面し、憤り、解放運動に深く関わって
いきます。また岳父・小幡徳月住職の親鸞主
義に影響され、一九二九年に三十四歳で得度し
て真宗の僧侶となります。「キリストの洗礼を

三顧の礼で迎えられ、朝熊の三宝寺説教所に移
ります。朝熊はひとつ行政区分ながら北部は「
被差別部落」、南部は「一般部落」と分けられ、
北部の住民はあらゆる面で差別され排除されて
いました。徹誠氏は差別撤廃運動の先導者とし
て期待され、地元住民とともにさまざまなかた
ちで行動していきます。

戦時中は戦地に向う兵士に「戦争は集団殺人

である。敵を殺してはいけない。君も殺されるな。生きて帰つてこい」と激励し続けた。そのため、非国民として治安維持法違反で特高警察に拘束される。釈放されると同様の発言をしてまた拘束されるの繰り返し。約四年間の獄中生活を強いられます。

■私たちとは親鸞さんに遇つて いるか

植木等氏の著書を輪読し、記録ビデオを鑑賞し、そして大東先生にご講演をいただき、仏陀・親鸞の教えに遇われた徹誠氏はどのような状況にあっても一切平等、非戦平和主義を貫き、生き抜かれた人であつたことがわかりました。しかし徹誠氏も完璧な人間ではなく、等氏や妹の真澄氏は「父の生きざまには許せない一面があつた」と証言しています。詳しくは『夢を食いつづけた男』の記述をご覧ください。

■背いて いる

一八八三年に『一殺多生』（多くを生かすために、少しくらいは殺してもかまわない）』という語を用い、戦争を肯定して布教します。日清戦争の十一年前だから、平時です。また戦時

教学として「眞俗二諦論」を利用して布教します。戦時中も平時も、親鸞さんがおおせにて宣^{せん}布の根本道場」と謳われている眞宗本廟に「見真」額は必要なのか。御遠忌理念はなんだつか。親鸞さんに「遇う」のではなく、「背いて」いることがたくさんあるな、と思わざるをえません。「おまえ、こんなことでいいのか。自らの現状を問うことを怠るな」という徹誠氏の声が聞こえてきた研修となりました。

その後、雨が降りしきるなか車で約一時間少々走り、多氣郡大台町栗谷の常念寺跡地に到着。参道入り口の杭には「聞徳寺跡地」と書いてありました。長年、徹誠氏のことを調査研究されている大東先生にも、「三宝寺が廃寺になつたいきつや、常念寺跡地がなぜ聞徳寺跡地になつたのか、いまだにわからない」ということでした。

廃寺となり徹誠氏が作つた石碑が残るだけの常念寺跡地に佇んで、今の私たちに何が問われているのかを考えました。宗祖親鸞聖人

七百五十回御遠忌の基本理念は「宗祖としての親鸞聖人に遇う」でした。私は、私たちは親鸞さんに遇つていいのでしょうか。私たち大谷派の歴史はどんな歴史だったのか。

部落解放同盟から「寺格制度は差別制度ではないか」と厳しく指摘されながら、その名称だけを廃止して、ほぼ同じ内容の寺院号数を温存

しています。選挙制度や坊守制度はこのままでいいのか。院号や下寺問題への取り組みはすすめられているのか。宗憲に「崇敬の中心、教法

が、戦争肯定（協力）と差別に加担。その歴史を慚愧^{ざんき}して表明したのが一九九五年の「不戦決議」でした。それから二十年、この決議を具現化する努力を重ねてきたでしょうか。

翌日は、朝熊から車で四〇分ほど離れた小俣町の西光寺を訪ねました。現在の住職は小幡和^わ徳月。徳月は曾祖父になるとのこと。和准氏は、父から聞かされた徹誠氏のことや、晩年西光寺を訪れた等氏とお会いしたことをお話しくださいました。

今という時代

先日、住職修習のため、二泊三日で本山に泊まりだつたのだが、自分の不甲斐なさに情けない思いしかない。初日はまだ余裕があつたものの、三日目に行われた合同討議では涙してしまつた。何故だか自分でもよくわからない。

住職任命をうけた後、一緒に修習をした班の皆や総代さんの見守る中、帶同の総代と一対一で向かい合い、抱負と決意を語らうのだが、他の方々のしつかりとした話しを聞くにつけ、おそらく迫り来る順番待ちのプレッシャーと、今まで寺を疎かにし続けてきたという思いの余り泣いてしまつたのだ。恥ずかしく(×)。

講師がされた、家と個ということを問題としてきた同朋会運動の話の流れで、「現代の問題は家の崩壊からおこつてきている」という表現があつたと思うが、講師の話や班の皆さんのお話を聞き、ウチの寺も崩壊の危機に迫られていると再認識させられた。以前にも同じようなことを書いた気がするが、真宗寺院としての寺の姿が、足元がグラグラなのだ。結局、父が住職になり三十五年以上、私が一緒に手伝つて二十年以上、何をどうしたいのかお互いにさっぱりわ

からないままであつた。二人してこれであるから御門徒は尚更わからなかつたであろう。しかし、そのせいで御門徒も真宗門徒というより先祖供養が大事な方が多数となり、また講師の話された「住職は門徒の顔色を伺い、門徒は住職を疑い」という指摘も今の私にはよく当てはまる。

ウチの寺は、というより父も私も御門徒に対して壁を作つてきたように思う。御門徒が関わることを極力しないなど父の時代からそういうつもりはなくともそのようにしてしまつていたのだ。総代も選びやすい方をお願いしてきたが、今回欠員を出したので探しめぐり、ようやく新たになつて頂いた方に帶同をお願いした。今回の修習でウチと他の寺院のあまりの違いに驚か

れたようで、良い意味でちょっとこの男をなんとかしなければ大変だと危機意識を持たれたようと思う。

私は人とコミュニケーションを取る事や話をする事が苦手だ。その上、教学にもあまり明るくない。後継者もいない。お気楽に暮らして来たがゆえに、今度は自分が全てをむき出しにせねばならない恐ろしさに涙したのだ。後を継いでくれる者も探さねばならないが、その者にしっかりと受け渡せるものを残していく重圧。住職はひとりぼっちで責任が発生する重圧。真宗八百年の歴史の重みに今、押し潰される。皆さん私と念佛のお友達でいてくれますか。

(編集委員 横田 典)



出会いの窓

『湯灌の仕事』

私は人と究極に接する事がしたいと思い、湯灌の会社に体験入社した事があります。先輩に同行して現場に行き、湯灌の儀、故人様のご洗体、着付けやお化粧をして旅立ちのお手伝いをさせてもらいました。先輩の仕事に対する姿勢も真摯で、私もできる範囲内で手伝いました。故人様のお顔が柔らかくなつくると、ご遺族の方も表情を緩ませながらお話し下さいました。短時間の中で垣間見られた皆様のお顔が今でも忘れられません。得難いものを頂戴しました。一日に数件の現場を経て帰宅した後、家族や自分が生きていて普通に会話している事がとても不思議な事に思えました。この仕事を続けたかったですが現在は別の仕事をしつつ法務をしています。今なお、この経験は自分の生きる姿勢を問いかけています。

(編集委員・徳田 潤子)

建永の法難での死罪は、「密通事件」に対する後鳥羽院の私刑であり、流罪は専修念佛禁止令による処分だ、と述べてきました。では、親鸞はなぜ流罪になつたのでしょうか。

竊かに以みれば、聖道の諸教は行証ひさしく廃れ、淨土の真宗は証道いま盛んなり。(中略)ここを以て興福寺の学徒は、太上天皇に、今上の聖暦承元丁卯の歳、仲春上旬の候に奏達す。

『教行信証』後序の著名な一節です。「興福寺は承元元年(一一〇七)二月上旬に後鳥羽院に訴えた」と言つています。興福寺奏状

親鸞 一時代を生きる—

第19回

平 雅行

(大阪大学名誉教授 / 京都学園大学教授)

建永の法難での死罪は、「密通事件」に対する後鳥羽院の私刑であり、流罪は専修念佛禁止令による処分だ、と述べてきました。では、親鸞はなぜ流罪になつたのでしょうか。

竊かに以みれば、聖道の諸教は行証ひさしく廃れ、淨土の真宗は証道いま盛んなり。(中略)ここを以て興福寺の学徒は、太上天皇に、今上の聖暦承元丁卯の歳、仲春上旬の候に奏達す。

さらくに重要な問題があります。流罪者の特定です。法然の弟子は二〇〇名近くいましたが、そのうち六名が流罪、二人が慈円による身柄預かりとなりました。この八名はどのようにして特定されたのでしょうか。

中世は小さな政府の時代です。警察にあたる検非違使に、まともな捜査能力はなく、彼らが二〇〇名の中からこの八名を特定するの

は、ほぼ不可能です。

月上旬とは、厳格な処分と穩便な措置を求めて、双方が朝廷に激しく働きかけていた時期だったのです。二月上旬の奏達は事実と考えるべきでしよう。

さらに対重要な問題があります。流罪者の特定です。法然の弟子は二〇〇名近くいましたが、そのうち六名が流罪、二人が慈円による身柄預かりとなりました。この八名はどのようにして特定されたのでしょうか。

さらくに重要な問題があります。流罪者の特定です。法然の弟子は二〇〇名近くいましたが、そのうち六名が流罪、二人が慈円による身柄預かりとなりました。この八名はどのようにして特定されたのでしょうか。

中世は小さな政府の時代です。警察にあたる検非違使に、まともな捜査能力はなく、彼らが二〇〇名の中からこの八名を特定するの

は、ほぼ不可能です。

月上旬とは、厳格な処分と穩便な措置を求めて、双方が朝廷に激しく働きかけていた時期だったのです。二月上旬の奏達は事実と考えるべきでしよう。

さらくに重要な問題があります。流罪者の特定です。法然の弟子は二〇〇名近くいましたが、そのうち六名が流罪、二人が慈円による身柄預かりとなりました。この八名はどのようにして特定されたのでしょうか。

中世は小さな政府の時代です。警察にあたる検非違使に、まともな捜査能力はなく、彼らが二〇〇名の中からこの八名を特定するの

は、ほぼ不可能です。

月上旬とは、厳格な処分と穩便な措置を求めて、双方が朝廷に激しく働きかけていた時期だったのです。二月上旬の奏達は事実と考えるべきでしよう。

さらくに重要な問題があります。流罪者の特定です。法然の弟子は二〇〇名近くいましたが、そのうち六名が流罪、二人が慈円による身柄預かりとなりました。この八名はどのようにして特定されたのでしょうか。

中世は小さな政府の時代です。警察にあたる検非違使に、まともな捜査能力はなく、彼らが二〇〇名の中からこの八名を特定するの

■■■京都教区の動き■■■

石見学場

十月一日（木）、二日（金）、石東組淨慶寺で、石見地区教化委員会主催の聖教学習会が開かれました。

石見学場は、蓬茨祖運先生、藤元正樹先生、宮城顕先生にお話をいただき、長らく続いてきました。

現在は藤場俊基先生の化身土巻講義を受けています。順次読み進めながらも、親鸞聖人の確かめられた念仏を繰り返し確かめています。

参加者は、石見地区内寺院の住職・坊守・寺族が多いですが、石見地区外の方や他宗派の方も聴講されるようになりました。

京都から遠い地域で聖教を学ぶ貴重な場となっています。

（石見地区教化委員会委員長 岡田 克也）

大津別院 清掃奉仕

十月二日（金）教区佛教青年会主催で大津別院にて清掃奉仕が行われた。新たに入会された若い仏青会員やご門徒さんの参加もあり、十数名の参加があつた。

約二時間、本堂の畳の掃除機かけや障子の

棧の拭き掃除、本堂周辺の柱や床などの拭き掃除、また書院の掃除など汚れを拭き取り、きれいになつた書

院に入り、ここが歴代のご門主が立ち寄られた際に座られる場所なのかと思いを馳せた。

終了後には別院内で懇親会の場をもち、参加者が交流を深めることができた。

（仏教青年会会員 岡 信行）



湖南地区 同朋婦人の集い

十月六日（火）栗東芸術文化会館さきらにおいて、第三十一回湖南地区同朋婦人の集いが開催された。今年度は「ハンセン病問題に学ぶ」という研修テーマで、東京教区存明寺住職酒井義一氏とハンセン病回復者で関西退所者原告団いちょうの会会長の宮良正吉氏を講師にお迎えした。まず始めに、酒井氏より

表題の「一、家庭推進員になる」は最終日に作成された宣誓文の一箇条である。この宣誓文を見て、教区教化基本方針「めざせ充実聞法環境～お寺も家庭も私の聞法道場です～」が心に浮かんできた。参加のご門徒は教化基本方針を意識されていないと思われるが、期せずして教区教化方針を体現させていたことに感動させられた。

（若狭第一組組長 東條 裕）

若狭第一組 推進員養成講座後期教習

と関わっておられるのかを丁寧にお話して頂いた。続いて宮良氏からはハンセン病になり国策（強制隔離など）によつてもたらされた病気とは別の様々な困難、病気が治つてもなお残る不安や苦悩を聞かせて頂いた。

（編集委員 沙加戸）

京都教区教化レポート

【大谷スカウト協議会】

四団がんばる

二〇〇一年四月、創団以来お世話になつてきた上京区の長休寺様から、中京区の淨慶寺様へ団本部を移転、以来早くも十五年の月日を経ました。

全国的なスカウト数の減少傾向は当団でも例外ではなく、移転当時ローバー隊、ベンチャーエー隊はすでにくく、ボーイ隊は壊滅寸前、わずかにカブ、ビーバーが数名ずつ、というありさまでした。早急に隊員増加を図るために、一日も早くお寺の檀家の皆様と新しい地域の方々に認知していただく必要があると考えました。幸い住職ご一家の全面的な支援もあり、お寺の主要な諸行事に制服で参列させていただくことができ、集会の都度その出発・帰着点をお寺とすることを許していただきました。すなわちお寺の周辺でスカウトが見慣れた存在となる、という状況を作り出すことができたのです。

老いの目には駆け回るスカウトたちの姿がまぶしく見えます。今はまだビー・バー、カブの二隊ですが、ボイスカウト京都第四団の全面復活の日の近いことを信じて、頑張っています。

(ボイスカウト京都第四団・育成会長 三浦 正)

事務連絡

『住職任命』

「届出順」

二〇一五年十月二十八日付
丹波第一組 光瑞寺 原田 祐生
山城第一組 光圓寺 橫田 典
〔敬称略〕

二〇一五年十月二十八日付
近江第三組 明受寺前住職 松村 隆
二〇一五年九月二十二日 八十七歳
近江第四組 悲願寺前坊守 出水 淳子
二〇一五年八月十五日 九十一歳
〔敬称略〕
『届出順』

『事務休暇のお知らせ』
教務所員研修会のため、一月二十日（水）は終業時間を三十分早めさせていただき、一月二十日（水）の間、事務休暇とさせていただきます。『承知おきください。』

『東本願寺出版刊行物のお知らせ』
法話CD『本願に生きた念仏者』⑯
宗門の近代教学の礎を築いた諸師の法話のCD化第十三弾。

『宗祖としての親鸞聖人に遇う』

講師 竹中 智秀氏
価格 一八〇〇円



『年末・年始事務休暇のお知らせ』
年末・年始事務休暇として、左記の期間は、教務所の事務の取り扱いを休止します。
緊急（期間中の授与物のお渡しや院号法名の申請、収骨の受付等は緊急の場合には含みません）の場合は、留守番電話にご用件を録音いただきますようお願ひいたします。
ご不便をおかけいたしますが、何卒ご理解の程、よろしくお願ひいたします。

〔緊急連絡先（教務所携帯電話）〕
○九〇一三七一九一七九八二

〔年末年始事務休暇の期間〕
二〇一五年十二月二十八日（月）より
二〇一六年一月五日（火）まで

〔基調講演〕を収録。

二〇〇三年十一月二十九日に視聴覚ホールで行われた「二〇〇三年度中央同朋会議

■京都教区教化テーマ■

今いのちがあなたを生みている
聞こえかいる声 感ほかいろのねぐら

◆教区事業予定

12月 8日 (火)	13:30 ~ 17:00	財政委員会専門部会	会場◇教区会館 3F 研修室
12月 12日 (土)	14:00 ~ 21:00	拾学舎 (教学・声明作法研修会)	会場◇教区会館 2F 大講堂
12月 14日 (月)	13:30 ~ 16:30	出版小委員会	会場◇教区会館 3F 会議室
12月 15日 (火)	13:30 ~ 18:30	組門徒会正副会長研修会	会場◇教区会館 全館
12月 16日 (水)	14:00 ~ 16:30	誕生児初参り式サポート説明会	会場◇教区会館 2F 大講堂
12月 17日 (木)	13:30 ~ 16:30	聖典学習会	会場◇教区会館 2F 大講堂
12月 18日 (金)	13:30 ~ 16:30	同和協議会現地学習会	会場◇リバティおおさか

◆地区・団体事業予定

12月 1日 (火)	13:00 ~ 17:00	ハンセン病問題に関する懇談会	会場◇教区会館 2F 大講堂
12月 3日 (木)	9:30 ~ 16:00	坊守会1日研修会	会場◇しんらん交流館 2F
	18:00 ~ 21:00	仏青声明教室	会場◇教区会館 2F 大講堂
12月 4日 (金)	13:30 ~ 17:00	教区合唱団	会場◇教区会館 2F 大講堂
12月 9日 (水)	9:00 ~ 16:00	坊守会真宗基礎講座	会場◇教区会館 2F 大講堂
	18:00 ~ 20:00	声明会	会場◇教区会館 3F 研修室
12月 10日 (木)	9:30 ~ 16:00	坊守会(常任委員会)	会場◇教区会館 3F 研修室
12月 11日 (金)	14:00 ~ 17:00	靖国問題学習会	会場◇教区会館 3F 会議室
12月 16日 (水)	18:00 ~ 20:00	声明会	会場◇教区会館 3F 研修室

「掲示板」

人と人との出遇いほど不思議で、

かつその人の一生を大きく変える大事なものはない

—— 林 晓宇 ——

「教区だより」第326号

真宗大谷派 京都教区 教化広報誌

発行日 2015(平成27)年12月1日

発行人 磯野恵昭(真宗大谷派京都教務所長)

発行所 真宗大谷派京都教務所

〒600-8164

京都市下京区花屋町通烏丸西入

Tel: 075(351)5260

Fax: 075(351)5256

メールアドレス: kyoto@higashihonganji.or.jp

ホームページ: http://www.k-kyoku.net/

印刷所 (有) 寶印刷工業所

the editor's note

編集後記

紅葉の見頃はいつだろう?と思っているうちに、一部の名所とよばれる所では嵐で散ってしまったと聞いた。また、ある所ではこれから先が見頃だという。

自然は正直で、その時の環境に応じた形で自分のあるべき姿である。

例えば、私が好きな桜もその他の花達も、自分が何気ない時に見かけた瞬間が「一番の見頃」になるのかなあと思う今日この頃です。

(編集委員 德田 潤子)